

# 独立行政法人日本スポーツ振興センタースポーツ振興くじ助成金交付要綱

平成15年11月4日  
平成15年度要綱第18号  
最近改正 平成25年10月31日  
平成25年度要綱第13号

(趣旨)

**第1条** この要綱は、独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「センター」という。）が、独立行政法人日本スポーツ振興センター業務方法書（平成15年度規則第1号。以下「業務方法書」という。）第13条の規定に基づき、スポーツ振興投票に係る収益をもって、地方公共団体又はスポーツ団体が行うスポーツ振興に係る事業に対する必要な資金の支給を適正に行うため、スポーツ振興くじ助成金（以下「助成金」という。）の交付に関して必要な事項を定める。

(助成の対象となる事業等)

**第2条** この助成金による助成の対象となる事業（以下「助成対象事業」という。）及び助成の対象となる者（以下「助成対象者」という。）並びに助成の対象となる経費（以下「助成対象経費」という。）

は、別記1から7の定めによるとおりとし、財源の範囲内で助成金を交付する。

2 国費（国費を財源とする資金を含む。）、スポーツ振興基金助成金又は公営競技等の収益による資金の支給を受けて行う事業等は、助成の対象としない。

3 助成対象事業の実施期間は、別に定める場合を除き、毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間とする。

(交付の申請)

**第3条** 助成金の交付を受けようとする助成対象者は、あらかじめ助成金交付申請書を別に定めるところに従い、独立行政法人日本スポーツ振興センター理事長（以下「理事長」という。）に提出するものとする。

(交付の決定)

**第4条** 理事長は、前条の規定による助成金交付申請書の提出があったときは、業務方法書第12条の規定に基づくスポーツ振興事業助成審査委員会の議を経て、助成しようとする事業及び交付しようとする助成金の額を決定し、助成金交付申請者（前条の助成金交付申請書を提出した者をいう。以下同じ。）に助成金交付決定通知書を送付する。

2 理事長は、前項の場合において、適正な交付を行うため必要があるときは、助成金の交付の申請に係る事項につき修正を加え、又は条件を付して助成金の交付の決定をすることができる。

3 理事長は、審査の結果、助成金を交付しないと決定したものについては、助成金交付申請者にその旨を通知する。

(申請の取下げ)

**第5条** 前条第1項の助成金交付決定通知書を受領した者は、当該通知に係る助成金の交付の決定の内容又はこれに付された条件に対して不服があることにより、交付の申請を取り下げようとするときは、交付の決定の通知を受領した日から14日以内に、助成金交付申請取下げ書を理事長に提出しなければならない。

2 前項の規定による申請の取下げがあったときは、当該申請に係る助成金の交付の決定は、なかったも

のとみなす。

(助成事業の遂行)

**第6条** 助成事業（助成金交付決定通知書を受領して行われる事業をいう。以下同じ。）を行う者（以下「助成事業者」という。）は、助成金の交付の決定の内容（次条に基づく承認をした場合は、その承認された内容。以下同じ。）及びこれに付された条件その他この要綱に基づく理事長の処分に従い、善良な管理者の注意をもって助成事業を行わなければならない、いやしくも助成金の他の用途への使用をしてはならない。

(計画の変更の承認)

**第7条** 助成事業者は、助成事業の内容を変更しようとするときは、あらかじめ計画変更承認申請書を理事長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、次の各号に掲げる軽微な変更の場合については、この限りでない。

(1) 別記1及び別記2に定める事業

実施期間内において、助成事業の目的及び計画の遂行に影響を及ぼさない範囲内で設計又は工事期間の変更を行う場合

(2) 別記3から別記7までに定める事業

助成事業の目的及び能率に関係がない事業計画の細部を変更する場合

2 理事長は、前項の計画変更承認申請書の提出があったときは、その内容を審査し適当であると認めたものについて、計画変更の承認及び変更交付決定通知書を助成事業者に送付するものとする。

3 理事長は、前項の場合において、必要に応じ、計画変更承認申請に係る事項につき修正を加え、又は条件を付することができる。

(助成事業の中止又は廃止)

**第8条** 助成事業者は、助成事業を中止又は廃止しようとするときは、助成事業中止（廃止）承認申請書を理事長に提出し、その承認を受けなければならない。

(事業遅延の報告等)

**第9条** 助成事業者は、助成事業が予定の期間内に完了することができないと見込まれる場合、又はその遂行が困難となった場合は、速やかに理事長に報告し、その指示を受けなければならない。

2 別記1又は別記2に定める助成対象事業を行う助成事業者は、気候の影響、災害その他やむを得ない事情により実施期間内に助成事業を完了することが困難と見込まれる場合は、あらかじめ実施期間延長承認申請書を理事長に提出し、その承認を受けなければならない。

(状況報告)

**第10条** 助成事業者は、助成事業の遂行及び支出状況について理事長から報告を求められたときは、速やかに助成事業状況報告書を理事長に提出しなければならない。

2 別記1に定める助成対象事業を行う助成事業者は、毎年、年度終了後2ヶ月以内に、助成事業の実施状況及び経費毎の助成金の支出状況を明らかにした助成事業状況報告書を理事長に提出しなければならない。

ただし、第12条の実績報告書を提出する場合については、この限りでない。

(助成事業の遂行等の命令)

**第11条** 理事長は、助成事業者が提出する報告等により、その者の助成事業が助成金の交付の決定の内

容又はこれに付した条件に従って遂行されていないと認めるときは、その者に対し、これらに従って当該助成事業を遂行すべきことを命ずることができる。

- 2 理事長は、助成事業者が前項の命令に違反したときは、その者に対し、当該助成事業の遂行の一時停止を命ずることができる。

(実績報告)

**第12条** 助成事業者は、助成事業を完了したとき（廃止の承認を受けたときを含む。）は、その日から30日を経過した日又は翌年度の4月10日のいずれか早い日までに助成事業実績報告書を理事長に提出しなければならない。

- 2 別記1又は別記2に定める助成事業を行う助成事業者は、第2条第3項に定める実施期間が終了したときに助成事業が未完の場合、実施期間終了に伴う実績報告書を実施期間終了の翌年度の4月10日までに理事長に提出しなければならない。

(助成金の額の確定等)

**第13条** 理事長は、前条第1項の報告を受けた場合は、報告書等の書類の審査及び必要に応じて現地調査等を行い、その報告に係る助成事業の実施結果が、助成金の交付の決定の内容及びこれに付した条件に適合すると認めたときは、交付すべき助成金の額を確定し、助成金交付額確定通知書を当該助成事業者に送付するものとする。

(概算払申請)

**第14条** 助成事業者は、前条の助成金の額の確定前に助成金が必要な場合には、助成金概算払申請書を理事長に提出しなければならない。この場合において、センターは助成事業の遂行に必要であると認めた額の範囲内において助成金を支払う。

(是正のための措置)

**第15条** 理事長は、第12条第1項の報告を受けた場合において、その報告に係る助成事業の実施結果が、助成金の交付の決定の内容及びこれに付した条件に適合しないと認めるときは、当該助成事業につき、これに適合させるための措置をとるべきことを当該助成事業者に対して命ずることができる。

- 2 第12条第1項の規定は、前項の規定による命令に従って行う助成事業について準用する。

(交付の決定の取消し等)

**第16条** 理事長は、第8条の規定による助成事業の中止又は廃止の申請があった場合及び次の各号に該当する場合は、第4条第1項の交付の決定の全部若しくは一部を取り消し、又は変更することができる。

- (1) 助成事業者が、助成金を助成事業以外の用途に使用した場合
- (2) 助成事業者が、助成事業に関して不正、怠惰その他不適当な行為をした場合
- (3) 助成事業者が、世界ドーピング防止規程又はスポーツにおけるドーピングの防止に関するガイドライン（平成19年5月9日文部科学省策定）を遵守していないと認められる場合
- (4) 助成事業者が、その他この要綱、別に定める交付実施要領、第6条の助成金交付決定通知書又はセンターと合意した内容についての契約書若しくは承諾書に違反した場合
- (5) 助成事業者が助成金を財源の全部又は一部として補助する事業（以下「間接助成事業」という。）を行う者（以下「間接助成事業者」という。）が、当該助成金を間接助成事業以外の用途に使用した場合
- (6) 間接助成事業者が、間接助成事業に関して不正、怠惰その他不適当な行為をした場合
- (7) 間接助成事業者が、その他この要綱に違反した場合

(8) 交付の決定後の事情の変更により特別の必要が生じた場合

- 2 前項第1号から第7号の規定は、助成事業について交付すべき助成金の額の確定があった後においても適用があるものとする。
- 3 理事長は、第1項第8号の規定による助成金の交付の決定の取消しにより特別に必要となった事務又は事業に対しては、理事長が認めた場合に限り、助成金を交付するものとする。

(助成金の返還)

**第17条** 理事長は、前条第1項の規定により助成金の交付の決定を取り消した場合において、助成事業の当該取消しに係る部分に関し、既に助成金が交付されているときは、助成事業者に対し期限を定めてその返還を命ずるものとする。

- 2 理事長は、助成事業者に交付すべき助成金の額を確定した場合において、既にその額を超過した助成金が交付されているときも同様とする。

(加算金及び延滞金)

**第18条** 助成事業者は、第16条第1項第1号から第4号の理由により交付の決定を取り消され、前条第1項の規定による助成金の返還を命ぜられたときは、その命令に係る助成金の受領の日から納付の日までの日数に応じ、返還すべき金額につき年10.95%の割合で計算した加算金をセンターに納付しなければならない。

- 2 前条の規定による助成金の返還期限は、返還命令の日から20日以内とする。期限内に納付しなかったときは、助成事業者は、返還期限の翌日から納付の日までの日数に応じ、未納に係る金額につき年10.95%の割合で計算した延滞金をセンターに納付しなければならない。
- 3 理事長は、前2項の場合において、やむを得ない事情があると認めるときは、助成事業者の申請に基づき、当該加算金又は延滞金の全部又は一部を免除することができる。

(調査等)

**第19条** 理事長は、助成金の執行の適正を期するために必要と認めるときは、助成事業者若しくは間接助成事業者に対し報告をさせ、又はセンター職員その他理事長が指定する者にその事務所等に立ち入り、帳簿書類等を調査させ、若しくは関係者に対し質問させることができる。

- 2 理事長は、前項の規定による調査等により、当該助成事業が助成金の交付の決定の内容又はこれに付した条件に適合していないと認めるときは、助成事業者に対し、これらに適合させるための措置をとるべきことを命ずることができる。

(財産の管理等)

**第20条** 助成事業者は、助成対象経費により取得し、又は効用の増加した財産（以下「取得財産等」という。）については、助成事業の完了後においても、善良な管理者の注意をもって管理し、助成金の交付の目的に従って、その効率的運用を図らなければならない。

(財産処分の制限)

**第21条** 助成事業者は、取得財産等のうち、不動産及びその従物並びに取得価格又は効用の増加価格が1個又は1組50万円以上の設備、機械及び器具については、別に定める期間内において、理事長の承認を受けずに助成金の交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸付け、又は担保に供してはならない。

- 2 理事長は、前項の場合において、承認を受けて取得財産等を処分することにより収入があったときは、その収入の全部又は一部をセンターに納付させることができる。

(助成金の経理)

**第22条** 助成事業者は、収支簿を備え、他の経理と区分して助成事業の収入額及び支出額を記載し、助成金の使途を明らかにしておかなければならない。

2 助成事業者（地方公共団体を除く。）は、金融機関に助成事業についての専用の口座を設けておかなければならない。

3 助成事業者は、第1項の支出額について、その支出内容を証する書類を整備して収支簿とともに助成事業の完了した日の属する年度の翌年度から5年間保存しなければならない。

(ロゴマーク等の表示)

**第23条** 助成事業者は、助成事業の実施に際し、別に定めるところにより助成金による助成事業である旨の記載及びスポーツ振興くじのロゴマークの表示を行わなければならない。

(助成事業の公開等)

**第24条** 助成事業者は、助成事業の実施状況及び実施結果並びに助成金の使途に関する情報を公開するものとする。

2 理事長は、助成事業により得られた成果を任意の方法又は媒体により第三者に開示又は公表し、また、非営利目的のため自ら利用し、又は第三者に利用させることができる。

(間接助成事業)

**第25条** 助成事業者は、間接助成事業者に補助を行うときは、第5条から第24条までの規定に準じて条件を付さなければならない。

(その他)

**第26条** この要綱に定めるもののほか、助成金の交付に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成15年11月4日から施行し、平成15年10月1日から適用する。

附 則（平成17年度要綱第6号）

この要綱は、平成17年11月25日から施行する。

附 則（平成18年度要綱第11号）

この要綱は、平成19年2月19日から施行する。

附 則（平成20年度要綱第21号）

この要綱は、平成20年7月25日から施行し、改正後の第18条及び第20条の規定は、平成20年4月1日から適用する。

附 則（平成20年度要綱第24号）

この要綱は、平成20年11月20日から施行する。なお、この要綱の施行前に交付内定した事業は、従前の例による。

附 則（平成20年度要綱第25号）

この要綱は、平成21年1月9日から施行する。

附 則（平成21年度要綱第3号）

- 1 この要綱は、平成21年10月15日から施行し、平成22年度以降に交付の決定を行う助成金から適用する。
- 2 平成21年度以前に交付の決定を行った助成金については、なお従前の例による。

附 則（平成22年度要綱第1号）

- 1 この要綱は、平成22年5月12日から施行し、平成22年度以降に交付の決定を行う助成金から適用する。
- 2 平成22年度以前に交付の決定を行った助成金については、なお従前の例による。

附 則（平成22年度要綱第5号）

- 1 この要綱は、平成22年10月14日から施行し、平成23年度以降に交付の決定を行う助成金から適用する。
- 2 平成22年度以前に交付の決定を行った助成金については、なお従前の例による。

附 則（平成23年度要綱第9号）

- 1 この要綱は、平成23年10月3日から施行し、平成24年度以降に交付の決定を行う助成金から適用する。
- 2 平成23年度以前に交付の決定を行った助成金については、なお従前の例による。

附 則（平成24年度要綱第13号）

- 1 この要綱は、平成24年10月12日から施行し、平成25年度以降に交付の決定を行う助成金から適用する。
- 2 平成24年度以前に交付の決定を行った助成金については、なお従前の例による。

附 則（平成25年度要綱第13号）

- 1 この要綱は、平成25年10月31日から施行し、平成26年度以降に交付の決定を行う助成金から適用する。
- 2 平成25年度以前に交付の決定を行った助成金については、なお従前の例による。

## 別記 1

### 大規模スポーツ施設整備助成実施要項

#### 1 目的

国際的又は全国的規模のスポーツの競技会等を開催するための大規模スポーツ施設の整備事業に対して助成することにより、我が国のスポーツに関する競技水準の向上及び国際競技大会等の開催が可能となる拠点施設の整備の促進を図ることを目的とする。

#### 2 助成対象事業

助成の対象となる事業は、次に掲げる事業とする。

##### (1) Jリーグホームスタジアム等整備事業

スポーツ振興投票対象試合を実施する競技場に係る次の事業

ア 新設事業

イ 改修又は改造事業

##### (2) 国民体育大会冬季大会競技会場整備事業

国民体育大会冬季大会（以下この要項において「冬季国体」という。）開催地に決定、内定又は開催順序了解された都道府県において当該大会の競技会場に選定したスポーツ競技施設（以下この要項において「大会会場」という。）の改修又は改造事業

#### 3 実施期間

助成対象事業の実施期間は、次のとおりとする。

##### (1) Jリーグホームスタジアム等整備事業

実施期間は、次のアからウのいずれかの期間とする。

ア 助成金の交付の決定を受けた年度の4月1日から3月31日までの1年間

イ 助成金の交付の決定を受けた年度の4月1日から翌年度の3月31日までの2年間

ウ 助成金の交付の決定を受けた年度の4月1日から翌々年度の3月31日までの3年間

##### (2) 国民体育大会冬季大会競技会場整備事業

実施期間は、次のア又はイのいずれかの期間とする。

ア 助成金の交付の決定を受けた年度の4月1日から3月31日までの1年間

イ 助成金の交付の決定を受けた年度の4月1日から翌年度の3月31日までの2年間

#### 4 助成対象者

助成の対象となる者は、別表1に定める地方公共団体とする。

#### 5 助成対象経費

助成の対象となる経費は、別表1に定めるとおりとする。

#### 6 助成金の額

助成金の額は、助成対象経費に別表1に定める助成割合を乗じて得た額（千円未満切捨て）とする。

なお、助成金の額の上限額は別に定めるとおりとする。

別表 1

助成対象 事業細目	助成対象者	助成対象経費		助成割合
J リ ー グ ホ ー ム ス タ ジ ア ム 等  整備事業	1 都道府県 2 市町村 (特別区を 含む。)	工事費	スポーツ振興投票対象試合の実施に直接 必要な本工事費及び附帯工事費	4分の3
		附帯設備費	工事に附帯して競技場に常設する機器又 は安全設備等及び競技場の整備に必要な 機械、装置又は車両等の整備に要する経費	
		設計監理費	工事に係る実施設計費及び工事監理費	
国民体育大会冬季大会競技 会場整備事業		工事費	冬季国体実施競技会の開催に直接必要な 本工事費及び附帯工事費	
		附帯設備費	工事に附帯して大会会場に常設する機器 又は安全設備等及び競技場の整備に必要な 機械、装置又は車両等の整備に要する経 費	
		設計監理費	工事に係る実施設計費及び工事監理費	

地域スポーツ施設整備助成実施要項

1 目的

総合型地域スポーツクラブの活動拠点となるクラブハウスの整備をはじめ、グラウンドの芝生化等の事業に対して助成することにより、地域における身近なスポーツ施設の整備の促進を図ることを目的とする。

2 助成対象事業

助成の対象となる事業は、次に掲げる事業とする。

(1) クラブハウス整備事業

総合型地域スポーツクラブの活動拠点となるクラブハウスに係る次の事業

ア 新設事業（増改築を含む。以下同じ。）

イ 改造事業

(2) グラウンド芝生化事業

地域住民の身近なスポーツ活動の場となるグラウンドの芝生化に係る次の事業

ア 芝生化新設・改設事業

イ 天然芝維持活動事業（アに掲げる芝生化新設事業の実施に伴うものに限る。）

(3) スポーツ施設等整備事業

屋外スポーツ施設に夜間照明を整備する事業等地域住民の身近なスポーツ活動の場となる施設（2

(1) 及び（2）の事業を除く。）で特に必要と認められるものを整備する事業

3 助成対象者

助成の対象となる者は、別表2に定める地方公共団体又は非営利のスポーツ団体とする。

4 助成対象経費

助成の対象となる経費は、別表2に定めるとおりとする。

5 助成金の額

助成金の額は、助成対象経費に別表2に定める助成割合を乗じて得た額（千円未満切捨て）とする。

なお、助成金の額の上限額は別に定めるとおりとする。

別表 2

助成対象事業細目		助成対象者	助成対象経費		助成割合	
クラブハウス整備事業	新設事業 (増改築を含む。)	1 市町村（特別区を含む。以下同じ。） 2 市町村が出資又は拠出したスポーツ団体 3 法人格を有する指定都市体育協会 4 法人格を有する総合型地域スポーツクラブ	工事費	建物の基礎、床、天井、屋根等の骨組み、壁、造作、建具、仕上げ及び施設に固定して設けられた諸設備等の本工事費並びに当該工事に係る電気、給排水衛生等の附帯工事費（改築の場合の取壊施設に係る解体費、撤去費及び処分費を除く。）	5分の4	
			設計監理費	工事に係る実施設計費及び工事監理費		
	改造事業		工事費	施設を全面的に改造するほか、施設の一部を転用するなど内部改造を行うことにより、クラブハウスの機能を充実させるための工事費	4分の3	
			設計監理費	工事に係る実施設計費及び工事監理費		
グラウンド芝生化事業	芝生化新設・改設事業	1 都道府県 2 市町村 3 都道府県又は市町村が出資又は拠出したスポーツ団体 4 法人格を有する都道府県体育協会及び指定都市体育協会 5 法人格を有する総合型地域スポーツクラブ	工事費	グラウンドの芝生化又は施設の全面的改修によるグラウンドの充実に要する本工事費及び附帯工事費（人工芝生化改設事業に係る暗渠排水網整備、灌水設備等の附帯工事費を除く。）	新設事業	改設事業
			設計監理費	工事に係る実施設計費及び工事監理費		
			諸謝金	天然芝の維持に係る活動並びに実施体制及びノウハウの構築等直接必要な経費	3分の2	
	旅費					
	借料及び損料					
	印刷製本費					
	備品費					
	消耗品費					
	通信運搬費					
	雑役務費					
スポーツ施設等整備事業		工事費	スポーツ施設等の整備に直接必要な本工事費及び附帯工事費	3分の2		
		設計監理費	工事に係る実施設計費及び工事監理費			

総合型地域スポーツクラブ活動助成実施要項

1 目的

総合型地域スポーツクラブの創設及び活動事業等に対して助成することにより、地域におけるスポーツ活動の拠点であり地域住民の交流の場となる総合型地域スポーツクラブの創設及び育成の促進を図ることを目的とする。

2 助成対象事業

助成の対象となる事業は、次に掲げる事業とする。

(1) 総合型地域スポーツクラブ創設支援事業

総合型地域スポーツクラブを創設するために設立された非営利の団体が行う次の事業に対して補助を行う事業

ア 設立準備委員会の開催

イ 広報活動

ウ 設立総会の開催

エ その他総合型地域スポーツクラブ創設に必要な活動

(2) 総合型地域スポーツクラブ創設事業

市町村が行う総合型地域スポーツクラブの創設に係る次の事業

ア 設立準備委員会の開催

イ 広報活動

ウ 設立総会の開催

エ その他総合型地域スポーツクラブ創設に必要な活動

(3) 総合型地域スポーツクラブ自立支援事業

総合型地域スポーツクラブが行う次の事業に対して補助を行う事業

ア 定期的・継続的なスポーツ教室、スポーツ大会等の開催

イ 健康・体力相談事業

ウ 各種研修会の開催

エ 広報活動

オ その他総合型地域スポーツクラブが行うスポーツ活動

(4) 総合型地域スポーツクラブ活動基盤強化事業

総合型地域スポーツクラブの活動基盤の強化に資する次の事業

ア 定期的・継続的なスポーツ教室、スポーツ大会等の開催

イ 健康・体力相談事業

ウ 各種研修会の開催

エ 広報活動

オ その他総合型地域スポーツクラブが行うスポーツ活動

(5) 総合型地域スポーツクラブマネージャー設置支援事業

総合型地域スポーツクラブが行うクラブマネージャーを設置することにより、クラブマネジメントの

強化及びクラブが実施する事業の公共性の向上を図る事業に対して補助を行う事業

(6) 総合型地域スポーツクラブマネジャー設置事業

クラブマネジャーを設置することにより、クラブマネジメントの強化及びクラブが実施する事業の公共性の向上を図る事業

(7) クラブアドバイザー配置事業

総合型地域スポーツクラブに関する幅広い知識と豊富な経験及び実績を有するクラブアドバイザーを配置することにより、総合型地域スポーツクラブの創設から自立・活動までを一体的にアドバイスし、総合型地域スポーツクラブがスポーツを通じて新しい公共を担い、コミュニティの核となることを推進する事業

3 助成対象者

助成の対象となる者は、別表3に定める地方公共団体又は非営利のスポーツ団体とする。

4 助成対象経費

助成の対象となる経費は、別表3に定めるとおりとする。

5 助成金の額

助成金の額は、助成対象経費に別表3に定める助成割合を乗じて得た額（千円未満切捨て）とする。  
なお、助成金の額の上限額は別に定めるとおりとする。

別表 3

助成対象 事業細目	助成対象者	助成対象経費	助成 割合
創設支援事業 総合型地域 スポーツクラブ	1 市町村（特別区を含む。以下 同じ。） 2 公益財団法人日本体育協会 3 公益財団法人日本レクリエ ーション協会	補助を行う事業に係る諸謝金、旅費、借料及 び損料、印刷製本費、スポーツ用具費、雑役 務費その他事業の実施に直接必要な経費	1 0 分 の 9
ブ創設事業 総合型地域 スポーツクラ	市町村	諸謝金、旅費、借料及び損料、印刷製本費、 スポーツ用具費、雑役務費その他事業の実施 に直接必要な経費	
自立支援事業 総合型地域 スポーツクラブ	1 市町村 2 公益財団法人日本体育協会 3 公益財団法人日本レクリエ ーション協会	補助を行う事業に係る諸謝金、旅費、借料及 び損料、印刷製本費、スポーツ用具費、雑役 務費その他事業の実施に直接必要な経費	
活動基盤強化事業 総合型地域 スポーツクラブ	法人格を有する総合型地域スポ ーツクラブ	諸謝金、旅費、借料及び損料、印刷製本費、 スポーツ用具費、雑役務費その他事業の実施 に直接必要な経費	
設置支援事業 総合型地域スポーツ クラブマネジャー	1 市町村 2 公益財団法人日本体育協会 3 公益財団法人日本レクリエ ーション協会	補助を行う事業に係る賃金、雑役務費	
設置事業 総合型地域スポーツ クラブマネジャー	法人格を有する総合型地域スポ ーツクラブ	賃金、雑役務費	
配置事業 クラブアドバイザー	1 都道府県 2 都道府県が出資又は拠出し たスポーツ団体 3 公益財団法人日本体育協会 4 都道府県体育協会	諸謝金、旅費、通信運搬費、雑役務費その他 事業の実施に直接必要な経費	

地方公共団体スポーツ活動助成実施要項

1 目的

地方公共団体が地域住民等を対象に、スポーツへの参加とその継続を促進するために行う事業に対して助成することにより、地域のスポーツ活動の活性化を図ることを目的とする。

2 助成対象事業

助成の対象となる事業は、地方公共団体が行う次に掲げる事業とする。

(1) 地域スポーツ活動推進事業

地域におけるスポーツ活動を推進するために行う次の事業

ア スポーツ教室、スポーツ大会等の開催

地域住民のスポーツへの参加を促進するとともに、幼少者から高齢者までの各層のスポーツニーズに応じたスポーツ教室及びスポーツ大会等を開催する事業

イ スポーツ指導者の養成・活用

多様化する地域住民のスポーツニーズに応え、適切な指導が行える指導者及び競技技術の専門的知識を有する指導者を養成し、又はそれらの指導者を地域のスポーツクラブ等へ派遣する事業

ウ スポーツ情報の提供

広報誌等の発行及びインターネットホームページの作成など、スポーツに関する情報を収集し、地域住民に提供する事業

エ 大型スポーツ用品の整備

公共スポーツ施設に設置する大型のスポーツ用品を整備する事業

(2) 国民体育大会冬季大会の競技会開催支援事業

国民体育大会冬季大会を開催する都道府県が、同大会における競技会を開催する市町村等に対して支援を行う事業

3 助成対象者

助成の対象となる者は、別表4に定める地方公共団体とする。ただし、地方公共団体の長が助成事業の実施を目的とする組織を設置し、その長の兼務する場合は、当該組織を地方公共団体とみなすものとし、当該組織の設置後、助成金の交付の手続きを行う地方公共団体から引き継いで行うことができるものとする。

4 助成対象経費

助成の対象となる経費は、別表4に定めるとおりとする。

5 助成金の額

助成金の額は、助成対象経費に別表4に定める助成割合を乗じて得た額（千円未満切捨て）とする。なお、助成金の額の上限額は別に定めるとおりとする。

別表 4

助成対象事業細目		助成対象者	助成対象経費	助成割合
地域スポーツ活動推進事業	スポーツ教室、スポーツ大会等の開催	1 都道府県 2 市町村	諸謝金、旅費、借料及び損料、印刷製本費、スポーツ用具費、通信運搬費、雑役務費その他事業の実施に直接必要な経費	5分の4
	スポーツ指導者の養成・活用			
	スポーツ情報の提供			
	大型スポーツ用品の設置			
国民体育大会冬季大会の競技会開催支援事業		都道府県	交付金（支援を行う事業に係る諸謝金、旅費、借料及び損料、賃金、印刷製本費、スポーツ用具費、消耗品費、通信運搬費、会議費、雑役務費その他事業の実施に直接必要な経費）	4分の3

(注) 地域スポーツ活動推進事業については、スポーツ団体と共催する場合又はスポーツ団体に委託して実施する場合のいずれについても、助成対象者は都道府県又は市町村とする。

## 別記 5

### 将来性を有する競技者の発掘及び育成活動助成実施要項

#### 1 目的

公益財団法人日本オリンピック委員会（以下「JOC」という。）及びJOC加盟競技団体等が行う競技特性に基づく将来性を有する競技者の発掘及び一貫指導の下での育成を行う事業のほか、地域が行う子どもの身体・運動能力特性に基づく将来性を有する競技者の発掘事業に対して助成することにより、中央レベルから地域レベルまでが一体となった優れた素質を有する競技者の組織的・継続的な発掘及び育成を図ることを目的とする。

#### 2 助成対象事業

助成の対象となる事業は、次に掲げる事業とする。

##### (1) タレント発掘・一貫指導育成事業

ア 「JOCアスリートプログラム」又はJOCとの連携により作成したトップレベルの競技者を育成するための指導理念や指導内容を示す「競技者育成プログラム」に基づいて、優れた素質を有する競技者を発掘し、定期的・継続的に育成するための事業

イ 上記「競技者育成プログラム」に基づいて、優れた素質を有する競技者を発掘し、定期的・継続的な育成を行う非営利のスポーツクラブの活動に対する支援事業

ウ チーム単位で競うスポーツの国内における最高峰のリーグを運営する団体と関係競技団体が協調したジュニア競技者（概ね18歳以下）の育成を目的とした下部リーグの開催事業

##### (2) 身体・運動能力特性に基づくタレント発掘事業

子どもの身体・運動能力特性に基づいて優れた素質を有する競技者を発掘する事業

#### 3 助成対象者

助成の対象となる者は、別表5に定める地方公共団体又は非営利のスポーツ団体とする。

#### 4 助成対象経費

助成の対象となる経費は、別表5に定めるとおりとする。

#### 5 助成金の額

助成金の額は、助成対象経費に別表5に定める助成割合を乗じて得た額（千円未満切捨て）とする。

なお、助成金の額の上限額は別に定めるとおりとする。

別表 5

助成対象事業細目		助成対象者	助成対象経費	助成割合
タレント発掘・一貫指導育成事業	「JOCアスリートプログラム」又は「競技者育成プログラム」に基づいて、優れた素質を有する競技者を発掘し、定期的・継続的に育成するための事業	1 公益財団法人 日本オリンピック委員会	諸謝金、旅費、渡航費、滞在費、借料及び損料、印刷製本費、スポーツ用具費、通信運搬費、雑役務費、その他事業の実施に直接必要な経費	5分の4
	「競技者育成プログラム」に基づいて、優れた素質を有する競技者を発掘し、定期的・継続的な育成を行う非営利のスポーツクラブの活動に対する支援事業	2 1の加盟競技団体 3 一般社団法人 日本トップリーグ連携機構の加盟団体	補助金（支援を行う事業に係る諸謝金、旅費、渡航費、滞在費、借料及び損料、印刷製本費、スポーツ用具費、通信運搬費、雑役務費、その他事業の実施に直接必要な経費）	
	チーム単位で競うスポーツの国内における最高峰のリーグを運営する団体と関係競技団体が協調したジュニア競技者（概ね18歳以下）の育成を目的とした下部リーグの開催事業	4 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ	諸謝金、旅費、渡航費、滞在費、借料及び損料、印刷製本費、スポーツ用具費、通信運搬費、雑役務費、その他事業の実施に直接必要な経費	
く タ レ ン ト 発 掘 事 業	身体運動能力特性に基づき、子どもの身体・運動能力特性に基づいて優れた素質を有する競技者を発掘する事業	1 都道府県 2 都道府県が出資又は拠出したスポーツ団体 3 都道府県体育協会	諸謝金、旅費、渡航費、滞在費、借料及び損料、印刷製本費、スポーツ用具費、通信運搬費、雑役務費、その他事業の実施に直接必要な経費	

スポーツ団体スポーツ活動助成実施要項

1 目的

スポーツ団体がスポーツの振興のために行う事業に対して助成することにより、生涯にわたる豊かなスポーツライフのための環境づくりと、競技水準の向上を図ることを目的とする。

2 助成対象事業

助成の対象となる事業は、スポーツ団体が行う次に掲げる事業とする。

(1) スポーツ活動推進事業

地域のスポーツからトップレベルのスポーツまで、幅広くスポーツ活動を推進するために行う次に掲げる事業

ア スポーツ教室、スポーツ大会等の開催

スポーツの普及や競技技術の向上のための実技教室若しくは競技会又はスポーツに関する講演会等を開催する事業

イ スポーツ指導者の養成・活用

多様化するスポーツニーズに応え、適切な指導が行える指導者及び競技技術の専門的知識を有する指導者を養成し、又はそれらの指導者を地域のスポーツクラブ等へ派遣する事業

ウ スポーツ情報の提供

広報誌の発行及びインターネットホームページの作成など、スポーツに関する情報を収集し、提供する事業

エ マイクロバスの設置

マイクロバスを設置し、スポーツ活動に参加する者の利便性の向上等を図る事業

(2) ドーピング検査推進事業

我が国におけるドーピング検査を推進するために行う次に掲げる事業

ア ドーピング検査事業

国内で開催される競技会又は競技会以外（国際競技大会への派遣前及び随時のことをいう。）においてドーピング検査を行う事業

イ ドーピング防止情報提供事業

ドーピング防止に係る各種国際会議等で得られた情報の詳細に関する印刷物等を作成し、国内の関係者（加盟団体、競技者、コーチ、ドーピング検査員等）に提供する事業

ウ ドーピング分析機器等整備事業

ドーピング検査に必要な分析機器整備やドーピング検査手法の実効性の確保に関する整備などによりドーピング検査分析を行う環境の整備を図る事業

(3) スポーツ仲裁等事業

スポーツ団体が競技者等に対して行った決定についての紛争に係る仲裁又は調停及び当該紛争を申し立てようとする当事者等に対する助言を行い、スポーツに関する紛争への解決を図る事業

(4) スポーツ指導者海外研修事業

ア スポーツ指導者等海外研修

スポーツ指導者等を海外に派遣して研修させることにより、スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図る事業

イ 若手スポーツ指導者長期在外研修

スポーツの競技を統括する団体に所属する新進気鋭の若手指導者を長期間海外に派遣し、その専門とする競技水準の向上に関する具体的な方策等について研修させるとともに、海外の選手強化シ

システム、指導者養成の実態等について調査・研究に当たらせることにより、将来における我が国のスポーツ界を担う人材を育成する事業

(5) 組織基盤強化事業

ア 国際交流推進スタッフ育成事業

当該団体所属の職員、スポーツ指導者、審判員又は医師等を長期間海外に派遣し、国際競技連盟や国際競技大会の運営組織等においてその専門とする内容について従事・研修させることにより、諸外国との連絡及び交渉等を担うスタッフを育成する事業

イ スポーツ団体ガバナンス強化事業

公益財団法人日本体育委員会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本レクリエーション協会又は公益財団法人日本障害者スポーツ協会（以下、「統括団体」という。）に加盟し、紛争解決手続きの整備及びその公表・周知を行った競技団体（以下「NF」という。）の統治・統制能力の強化を図る次の事業

(ア) 統括団体において、加盟するNFの法律・経営面についての課題等に対する指導・助言や統治・統制に関する研修会を実施する事業

(イ) 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構及び公益財団法人日本スポーツ仲裁機構において、関係競技団体の課題等に対する指導・助言や研修会を実施する事業

(ウ) NFにおいて、NF自身の法律・経営面についての課題等に関する専門家を配置する事業

(6) 国際スポーツ会議開催事業

国際スポーツ団体や諸外国スポーツ団体の関係者が参加するスポーツに関する国際会議を我が国において開催する事業

3 助成対象者

助成の対象となる者は、別表6に定める非営利のスポーツ団体とする。

4 助成対象経費

助成の対象となる経費は、別表6に定めるとおりとする。

5 助成金の額

助成金の額は、助成対象経費に別表6に定める助成割合を乗じて得た額（千円未満切捨て）とする。

なお、助成金の額の上限額は別に定めるとおりとする。

別表 6

助成対象事業細目		助成対象者	助成対象経費	助成割合
スポーツ活動推進事業	スポーツ教室、スポーツ大会等の開催	1 公益財団法人日本体育協会 2 公益財団法人日本オリンピック委員会 3 公益財団法人日本レクリエーション協会	諸謝金、旅費、借料及び損料、印刷製本費、スポーツ用具費、通信運搬費、雑役務費その他事業の実施に直接必要な経費	5分の4
	スポーツ指導者の養成・活用	4 公益財団法人日本障害者スポーツ協会 5 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構		
	スポーツ情報の提供	6 公益財団法人日本スポーツ仲裁機構 7 1、2 又は3 の加盟団体	諸謝金、旅費、借料及び損料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費その他事業の実施に直接必要な経費	
	マイクロバスの設置	8 1～7 以外でスポーツ振興を主たる目的とする法人	備品費	
ドーピング検査推進事業	ドーピング検査事業	1 公益財団法人日本体育協会 2 公益財団法人日本オリンピック委員会 3 公益財団法人日本障害者スポーツ協会 4 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 5 4の加盟団体	諸謝金、旅費、借料及び損料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費その他事業の実施に直接必要な経費	10分の9
	ドーピング防止情報提供事業	1 公益財団法人日本体育協会 2 公益財団法人日本オリンピック委員会 3 公益財団法人日本障害者スポーツ協会 4 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構	諸謝金、旅費、渡航費、滞在費、借料及び損料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費その他事業の実施に直接必要な経費	
	ドーピング分析機器等整備事業	公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構	諸謝金、旅費、借料及び損料、印刷製本費、備品費、消耗品費、通信運搬費、雑役務費その他事業の実施に直接必要な経費	
スポーツ仲裁等事業		公益財団法人日本スポーツ仲裁機構	諸謝金、旅費、借料及び損料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費その他事業の実施に直接必要な経費	

海外研修事業	スポーツ指導者等海外研修	公益財団法人日本体育協会		5分の4
	若手スポーツ指導者長期在外研修	1 公益財団法人日本オリンピック委員会 2 1の加盟団体		
組織基盤強化事業	国際交流推進スタッフ育成事業	1 公益財団法人日本体育協会 2 公益財団法人日本オリンピック委員会 3 公益財団法人日本レクリエーション協会 4 公益財団法人日本障害者スポーツ協会 5 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 6 公益財団法人日本スポーツ仲裁機構 7 1又は2の加盟団体	諸謝金、旅費、渡航費、滞在費、借料及び損料、印刷製本費、通信運搬費、その他事業の実施に直接必要な経費	4分の3
	スポーツ団体ガバナンス強化事業	1 公益財団法人日本体育協会 2 公益財団法人日本オリンピック委員会 3 公益財団法人日本レクリエーション協会 4 公益財団法人日本障害者スポーツ協会 5 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 6 公益財団法人日本スポーツ仲裁機構 7 1～4のいずれかの加盟競技団体	諸謝金、旅費、借料及び損料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費その他事業の実施に直接必要な経費	
	国際スポーツ会議開催事業	1 公益財団法人日本体育協会 2 公益財団法人日本オリンピック委員会 3 公益財団法人日本レクリエーション協会 4 公益財団法人日本障害者スポーツ協会 5 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 6 1又は2の加盟競技団体	諸謝金、旅費、渡航費、滞在費、借料及び損料、印刷製本費、消耗品費、通信運搬費、会議費、雑役務費その他事業の実施に直接必要な経費	3分の2

国際競技大会開催助成実施要項

1 目的

我が国において、国際的な規模のスポーツの競技会を開催する事業に対して助成することにより、国際競技大会の円滑な開催を図ることを目的とする。

2 助成対象事業

助成の対象となる事業は、次に掲げる事業とする。

(1) 大会開催事業

次に掲げる大会を我が国において開催する事業

ア オリンピック競技大会（冬季競技大会を含む。）

イ アジア競技大会（冬季競技大会を含む。）

ウ ユニバーシアード競技大会（冬季競技大会を含む。）

エ 国際的な規模を有するスポーツの競技会で、次のア又はイに掲げる基準のいずれかに適合するもの

(ア) 参加国数（予選大会があるものについては、予選大会の参加国数）が30か国以上であるもの

(イ) 開催事業費が2億5千万円以上であるもの

(2) 大会開催準備事業

(1) の事業の準備を行う事業

3 助成対象者

助成の対象となる者は、次の各号のいずれかに該当する地方公共団体又は非営利のスポーツ団体とする。

(1) 都道府県

(2) 市町村（特別区を含む。）

(3) 公益財団法人日本オリンピック委員会又は公益財団法人日本体育協会の加盟競技団体

(4) 大会組織委員会（大会開催の準備及び運営に関する事業を目的として設立された法人）

4 助成対象経費

助成の対象となる経費は、諸謝金、旅費、渡航費、滞在費、借料及び損料、印刷製本費、スポーツ用具費、消耗品費、通信運搬費、会議費、雑務費その他事業の実施に直接必要な経費とする。

5 助成金の額

助成金の額は、次に掲げるところによるものとする。

なお、助成金の額の上限額は別に定めるとおりとする。

(1) 大会開催事業

助成金の額は、助成対象経費に5分の1を乗じて得た額（千円未満切捨て）とする。

(2) 大会開催準備事業

助成金の額は、助成対象経費に5分の4を乗じて得た額（千円未満切捨て）とする。